

『局在神経学講座』Web 第Ⅱ期「神経局在診断を読む」

脳神経 1-② 2021/12/16 講師 丸山正好

上／下直筋の3次作用

- 1) SRは上転、IRは下転の作用が生じる
- 2) 筋は視軸に対して斜め後方に走行
- 3) 筋停止部が眼球の前内側にあるため、常に内転を伴う
- 4) 内転では上直筋：内旋／下直筋：外旋の作用が強くなる

上／下斜筋の3次作用

- 1) SOは下転、IOは上転の作用が生じる
- 2) 筋は視軸に対して斜め前方に走行
- 3) 筋停止部が眼球の後外側にあるため、常に外転を伴う
- 4) 外転では上斜筋：内旋／下斜筋：外旋の作用が強くなる

眼球運動は6種類の外眼筋の共同運動で成り立つ

上／下直筋の最大作用

- ・ 外方視 23° で筋の長軸と視軸が重なる
- ・ 上直筋は上転、下直筋は下転の純粋な作用筋になる

上／下斜筋の最大作用

- ・ 内方 50° で筋の長軸と視軸が重なる
- ・ 上斜筋は下転、下斜筋は上転の純粋作用筋となる

外眼筋の総合作用による眼球運動

右上方注視

右眼球：外転／上転

左眼球：内転／上転

右下方注視

右眼球：外転／下転

左眼球：内転／下転

動眼神経麻痺

- 1) ()が障害される→()
- 2) 瞳孔→()
- 3) 眼球は()に変位→()

赤核の病巣における動眼神経障害